

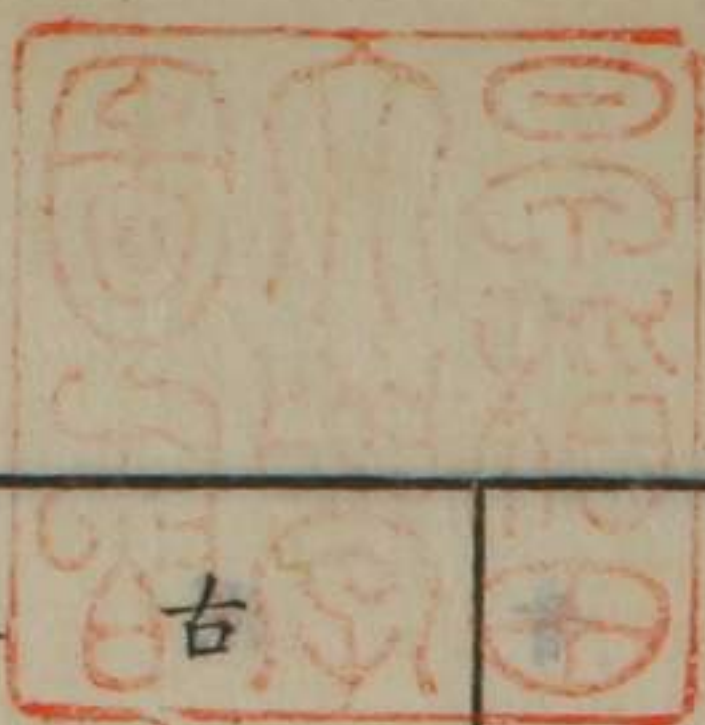
日本古代文字考
落合直澄著
二

ホ 2
4228
2

和装本



門木部
號
卷



字象体古

カ	ク	コ	ケ	キ
カ	ク	コ	ケ	キ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	イ	ユ	エ	ヨ
ラ	リ	ル	レ	ロ
ワ	ヰ	ヱ	ヰ	ヱ

●第十三章 豊國字
ト豊國字
ト豊國白杵町大友氏所載ノ上今
ト豊國白杵町大友氏所載ノ上今
ト豊國白杵町大友氏所載ノ上今

日本古代文字考卷之下

落合直澄著



○日本古代文字考下卷

二

真合

	濁音					新字体象字				
	コ	ケ	ク	キ	ク	才	エ	ヨ	イ	ア
ソ	メ	ス	シ	サ	𠂔	𠂔	𠂔	キ	由	
ト	テ	ト	止	𠂔	𠂔	𠂔	久	𠂔	𠂔	
フ	フ	フ	ヒ	ハ	ト	予	口	七	𠂔	
				添字 今く	へ	上	企	𠂔	𠂔	
				起原明瞭ナリ、然レ 字ヨリ出タルモ近 ハ交レリト見エタ トアリシ等ハ又漢 ドアリシ等ハ又漢 ヲトリタルモノト ヲ得ズ予字義ヲ解 ニ古体象字ニ漢字 リ誤ナキヲ保証セ	𠂔	𠂔	フ	𠂔	𠂔	
				カ カ カ カ カ	今	メ	ズ	𠂔	マ	
				カ カ カ カ カ	𠂔	𠂔	ユ	𠂔	中	
				カ カ カ カ カ	𠂔	レ	ル	𠂔	𠂔	
				カ カ カ カ カ	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	
				カ カ カ カ カ	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	

上記ノ真偽ハ今之ヲ論ゼズ。上記ニ載スル所象字及字源ノ確實ナル證數多アリ。一ニハ神代卷口決ニ。神代文字象

形也。二ニハ歌繪。三ニハ日向ノ若戸村ノ字。四ニハ豊後平尾山鑛山ノ字。五ニハ紀國當川ノ字。六ニハ下野石井村ノ字。七ニハ琉球宮古嶋ノ字等ナリ。是等ニ符合セルヲ以テ証スベシ。

○世ノ學者カタカナヲ漢字ノ偏傍ヲ取テ作レリトハ定説ノ如クナレド。新井白石氏獨片假字ノ中ナルヘノツ等ハ肥人書ヲ採レルヲイロハ假名ノ中ニモ片假名ニ倣ヒテヘノツ等ヲ採入レタル由ニ云ハレタリ。漢字ハ數万アレバ漢字ノ偏傍ヲ取テカタカナヲ作レリトスレバ如何ナル附會モナルベキニ猶世ノ學者ノヘツ等ノ出所ニ若テ種々ノ説アリ。新井氏ノ肥人書ヨリ出タリト云ハ能ク云ハレタリ。カタカナニヨリハアミヒサ了与ミ爪ス

川等アリ。是等ノ字体ヲ考フルモ漢字ナラザルヲ著シ。委クハ次章ニ去ベシ。今ノカタカナハ上記ノ外ノ古字モ雜レリト見ユ。

カハナ
名義

○カハナハ神字ヨリ出タル語ナリ。略シテカナトモ去ヘリ。カハナカナノ語(うつぼ物語)源氏物語等ニ見エタリ。此頃ハイロハガナヲ指セルナリ。漢字ヲ借リテ書ケルヲカナト去フハ(萬葉假名ノ類カリ)ナノ義カ。或ハ神字ヨリ轉ジタル語ナルベシ。日本紀私記ニ假名ト書ケレドカリナトハ訓ミ難シ。神字肥人ノ書ヲモ兼テ説キタレバナリ。

○古人象字ト書ケルハ象神字ノ略ナラムト思ハルレバ今カタカナニ象字ノ字ヲ用ウ。カタナト訓ムモ可ナリ。物体ニ象リテ作レル故ノ名ナリ。神代卷口訣ニ去。神代文字象

カカカム
ナ

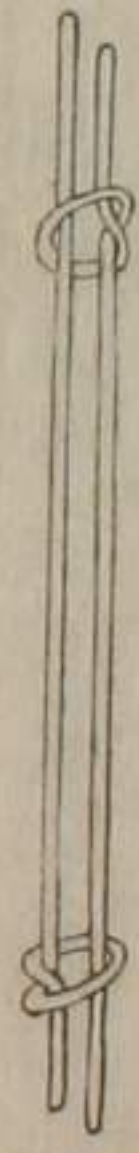
形也トアル是ナリ。カタカムナノ語ハ延喜ノ朝ニ仕ヘシ堤中納言物語ル虫メヅ巻おぶかふを書きたまはざりばかかむむびの去々ト千歳ノ昔物語ニ見エタリ。然シテ其字体ハ上ニ載スルガ如シ。アスラコヤハ發音ノ口形ナリト去ヘリ。今新体象字カハナ以テ記セル書ノ傳ハレルハ光仁帝ノ世ニ景戒ガ著セル日本靈異記ノ訓註ニ象字マヅリニ記セルヲ始トシテ釋日本紀ニ引用セル弘仁三卷私記永觀二年針博士丹波康賴ガ著セル醫心方ナド古キモノナルベシ。日本紀ニ象字ヲ附タルハ弘仁承平ノ頃ノ博士ノシワザニ出デシモノナルベシ田中翁ノ藏サル、今昔物語ノカダカナマヅリニ書ケルヲ見レバ是モ原書ハカタカナマヅリニテ甚古キモノナリ。此他佛書ドモニ象字ヲ附ケ

タル多シ。

○漢土ノ古ニ結繩ノ政ト云ハ如何ナル法カ詳ナラズ。字体ノ結繩ノ如キヲ云ナラムカ。

○玉勝間十三ニ。讃岐國ノ村里ニテ艶書ニ替フルニ葉ヲ結テ贈ルト云ヘリ。其狀圖ノ如シト。

右ノ如ク葉ヲ結ビテ贈ルナリ。



諾ハザル片ハ右ノ如ク解キテ返スナリ。



諾フ片ハ右ノ如ク結目ヲ中ヘ引寄セ返スナリ。

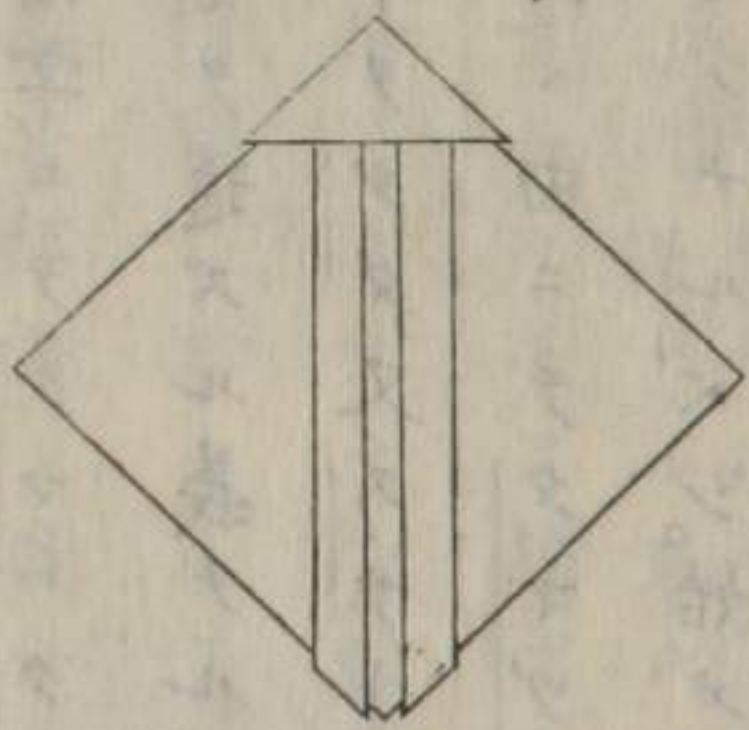


結繩

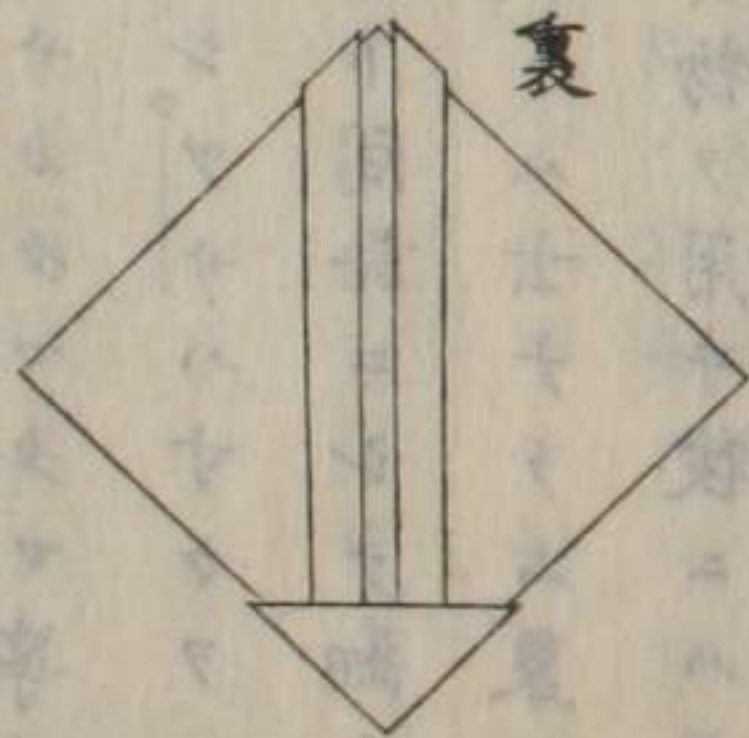
玉梓

○木挽ヲ業トスル者山中ニ入り繩ヲ結テ日數ノ覺トセシ
トモ聞ケリ。是現ニ結繩ノ法ヲ行フナリ。
○甲斐國都留郡ニテ艶書ニ替フルニタマヅサヲ以テセリ。
紙ヲ圖ノ如ク折リテ中ニ種々ナル物品ヲ入レテ心意ヲ
通ズルナリ。

表



裏



タマヅサノ狀
カクノ如シ一
枚ノ紙ニテタ
タムナリ、
今モタマヅサ
ト云ヘリ、

菊蕩ハ今夜松葉ハ待此二品ヲ入ルレバ今夜待ナリ。蕪葎
ハ諾端縮ハ不能為糸ハ來ノ類。村處ニ由テ異ナリト雖大

凡カクノ如シト古ヘリ。世ニハンジモノト古フモノ、如シ。古代モ如此術アリシヨリ玉梓タマヅサノ名アルナルベシ。玉梓ハ借字ニテタマハタマサカタマタマ等ノ義ニシテ偶ニ心意ヲ通ズル義ナルベシ。ツサハ寸々ヲスタスタト訓ミ壁草ヲツタ又スサト古ト同語ニシテ細カニ斷タル品ヲ入ル、由ニテタマヅサトハ古ナラム。象形字ノ起原ハ如此モノナルベシ。始メ實物ヲ用キ後ニハ其形ヲ畫ニ書キテ用キルハ人智進歩ノ順序ナリ。

○歌繪

ウタエハ即古ノ象形字ニシテ上古ニハ世ニ行レシモノナルベシ。中古ニ降リテハ便利ナル新体ノ象字カタカナナド出來タレバ古雅ナル象形字ヲ實用ニ用キル者ナクタゞ慰ニ

歌繪

スル歌ナドニハ用キシ故ニ歌繪ノ名ハ起リシモノナルベシ。サレバ歌繪ウタエ即チ象字カタカナニ象字即歌繪ナリ。ウタエノ名稱ノモノニ見エタルハ後撰集離別ニみちのくへまうりけふ人に扇てうてうてふ小書せ侍。源氏物語梅が枝ニけふてうてふをねまひくみかけどのたまへば古々。岷江入楚慶長年代ニ中院通勝朝臣ノ著セル源氏物語ノ注釋ナリ。ニ或注ニ歌繪トハヤト古ヘバ矢ヲ繪ガキワト古フニ輪ヲカキニト古フニ荷ヲ繪ニカクナリ。此注ニ上ノ古体象字ヲ合セ見レバ象字歌繪同ジ物ナルヲ知レタリ。繪ハ吳音邦語ト暗合セリ。出雲風土記ニ畫鞞ノ語アレバ古語ナリ。彫ハ繪ノ活語ナリ。古代毛筆ナシ。金石木ニ彫リ畫キシ故ニ此語アリ。

繪ハ邦語ナリ

○大和國益田池碑



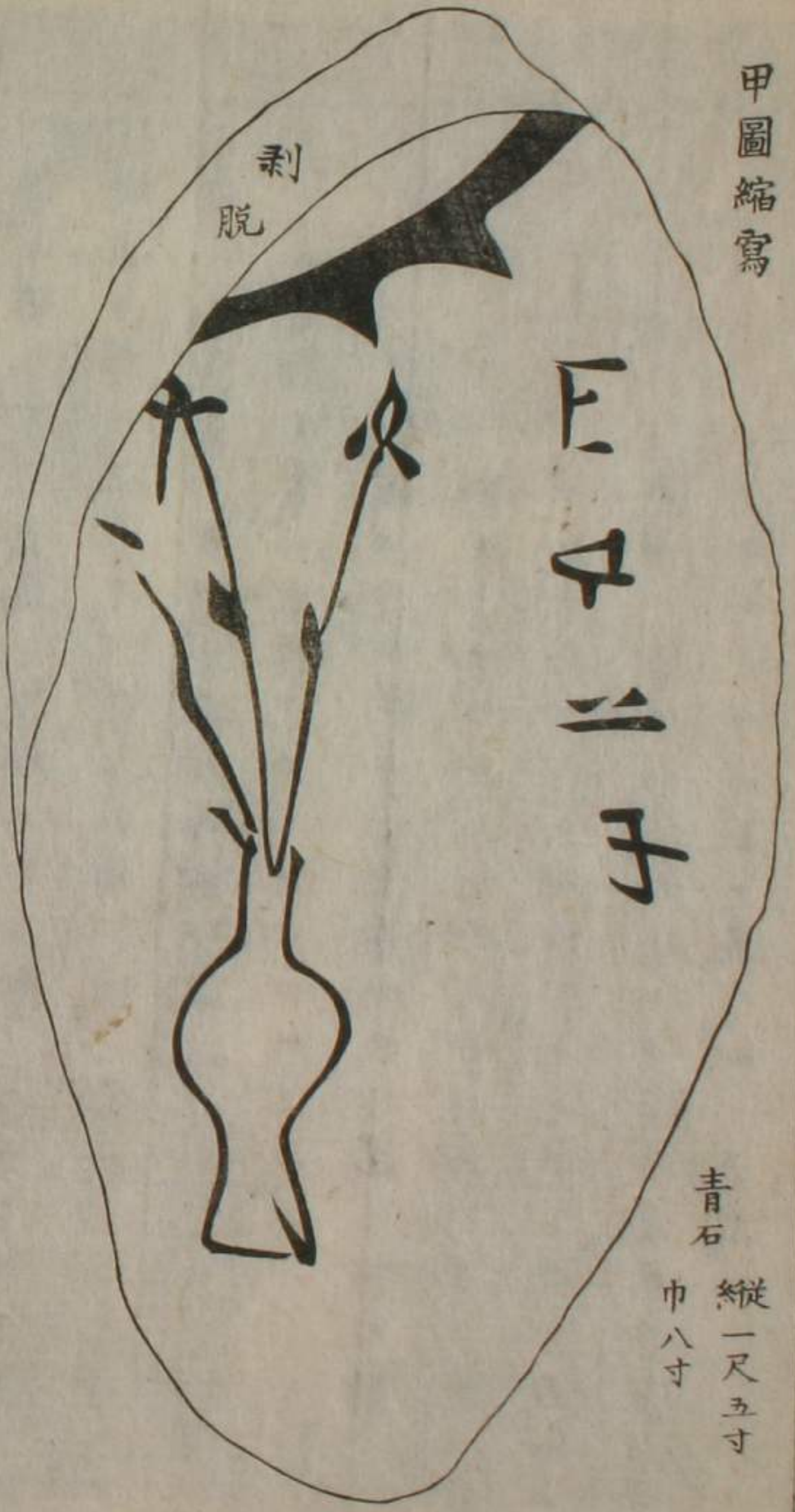
小村金藏

集古十種云。益田池碑僧空海所撰云。築高取城時取以為城脚城脚間所存一雷字好古者打取以傳世。此集所以得收也。此碑字剥脫シテ字体判然セズ。世人之ヲ雷字トスルモノ甚不審ナリ。又空海ノ所撰トスル何ノ証有リヤ。字体ノ明瞭ナル所ハ工^ノミ。蓋シ此餘ハ石ノ剥脫ニシテ字ニハ非ルベシ若シ然ラバ古体象字ノ工^ミナリ。工^ミハト兆ニニテ西方ニ當ル方角ヲ知ラセタルモノカ。

○下野國河内郡石井村高禰神社所藏石刻古字

明治十九年四月八日石原六廣ト共ニ社ニ於テ之ヲ寫ス。古老云此石正光寺々内ノ石井ノ中ヨリ出ヅト。畫形等ニヨレバ全形六分ノ一バカリナル片石ト思ハルナリ。

甲圖縮寫



青石 縦一尺五寸
巾八寸

小石

象字 ^ホ ^エ ^エ ^子 按ニ蝦夷人ノ墓碑ニシテ蝦夷人ノ名カ。
上部ニ火炎状アリ。注連繩シメナハ或ハ生玉形イタタマノ缺損セシナルベシ。
畫ハ瓶ニ菖蒲ヲサシタル圖ナルベシ。

乙圖模寫



○日本古代文字考下卷

七

真

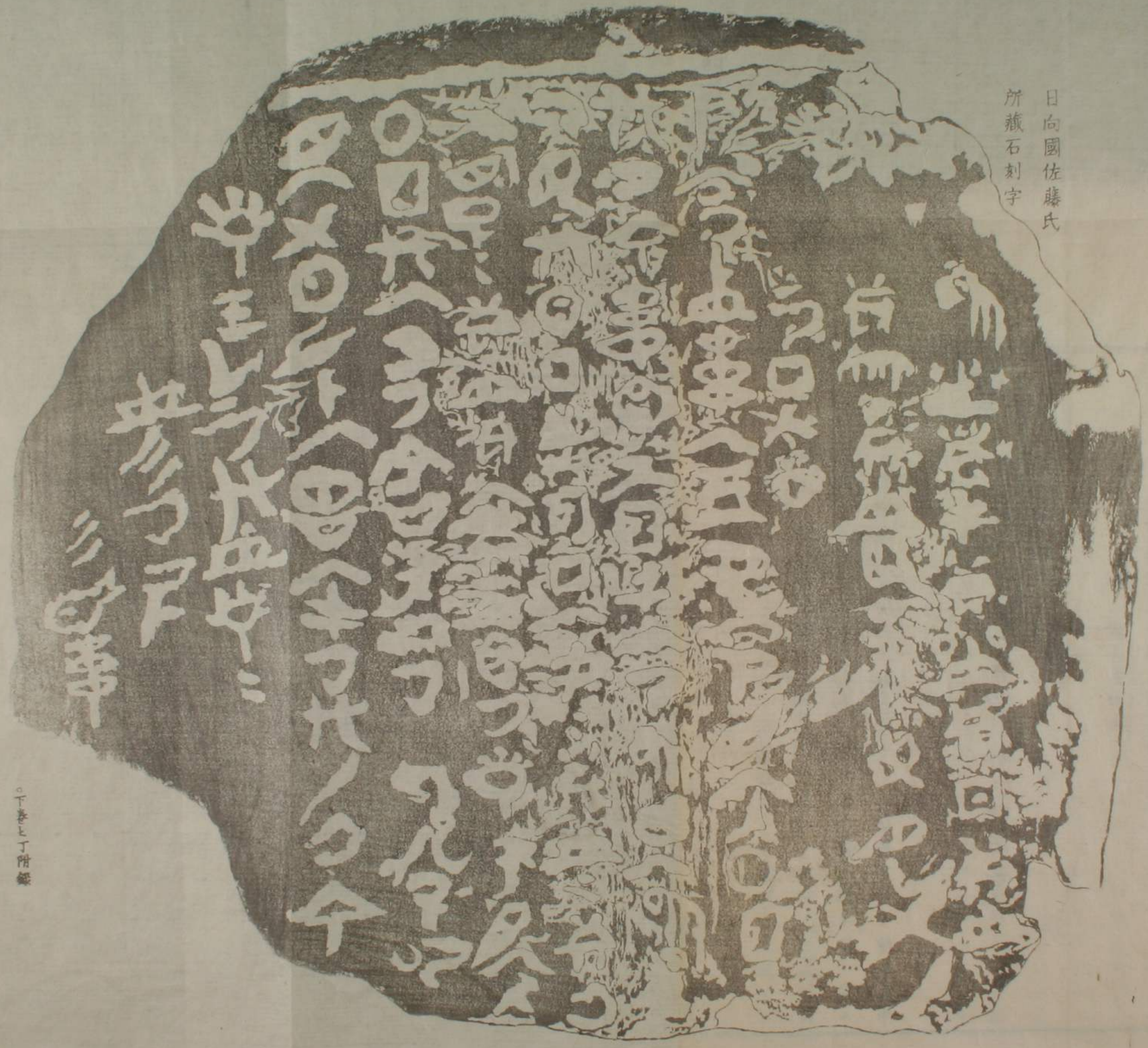
○日向國臼杵郡岩戸村天磐戸神社舊神官佐藤信忠
所有石刻字

明治九年京都人寺西利八日向國巡回ノトキ
石摺トシテ予ニ贈ル。上記鈔譯ニ云。文政四年
岩戸村掘地得蓋横一尺三寸縦一尺二寸圓石
中央厚二寸五分。并得古鏡一面。此石今藏七折
材佐藤家トアリ。予石摺ヲ見ルニ石面剥脫字
体判然セズ。其實物モ如此ナリヤト問フニ利
八答フ如此ト。今模寫シテ上木ス。上記鈔譯ニ
ハ訓ヲ附シタリト雖予ハ其誤アラムコトヲ
恐レテ敢テ訓ヲ加ヘザルナリ。サレド豐國象
字ナル論ヲ俟タズ。



。下巻七丁附録

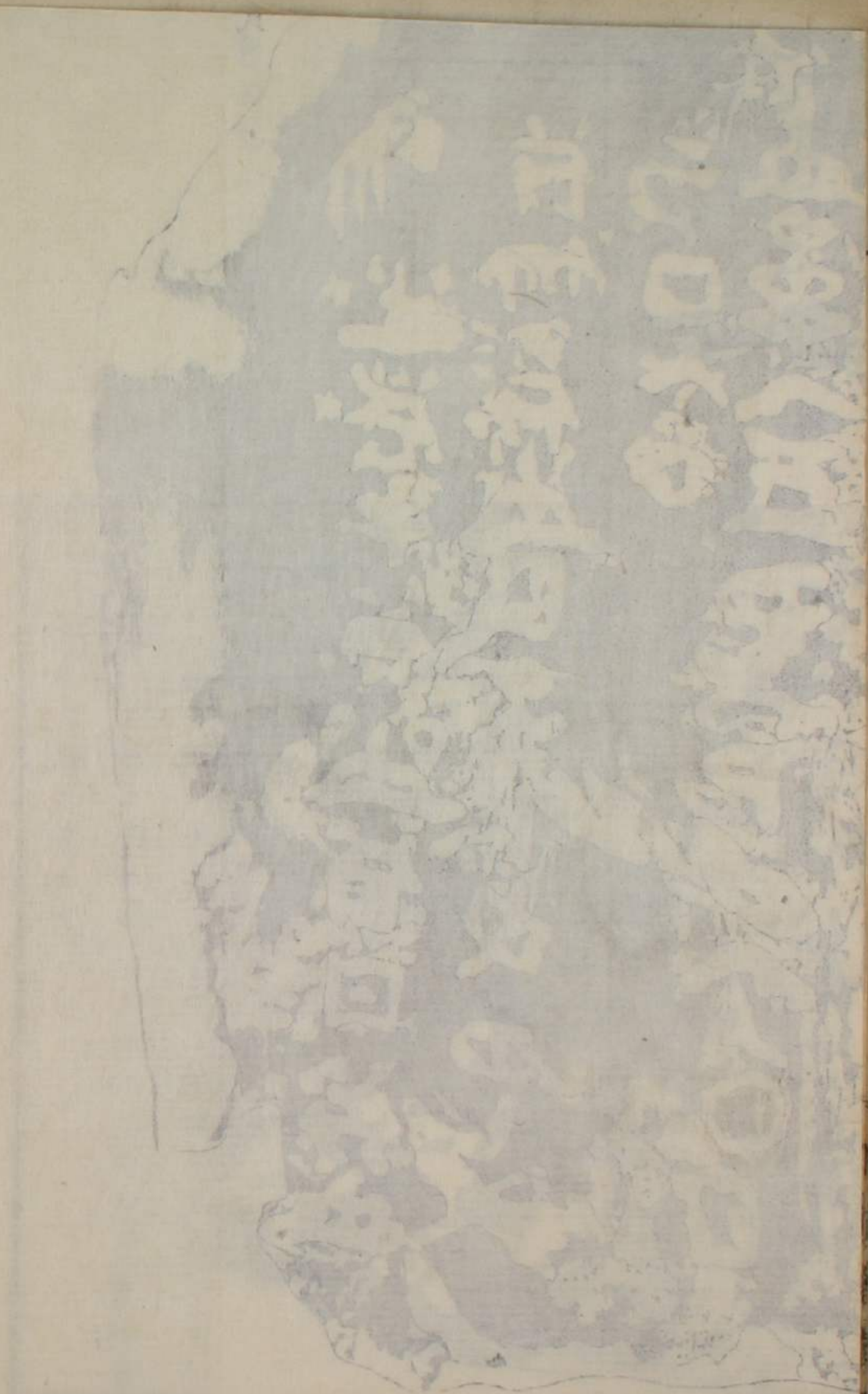
日向國佐藤氏
所藏石刻字



日向國佐藤氏
所藏石刻字

下巻と丁附録

中央厚二寸五分并得古鏡一面此石今藏七折
村佐藤家トアリ。予石摺ヲ見ルニ石面剥脱字
体判然セズ。其實物モ如此ナリヤト問フニ利
八答フ如此ト。今模寫シテ上木ス。上記鈔譯ニ
ハ訓ヲ附シタリト雖予ハ其誤ヲラムコトヲ
恐レテ敢テ訓ヲ加ヘサルナリ。サレド豐國象
字ナル論ヲ俟タズ。



豊後尾平
山石刻鑛
夫字

○豊後國直入郡尾平山鑛夫字

字 カネヤマヒコノミコト
金山彦姫命



上記鈔譯云。尾平山ノ鑛夫古ヨリノ秘傳トシテ新ニ山中
鑛穴ヲ鑿タムトスル前日必此字ヲ其所ニ微ニ刻ミ置キ
祭典ヲ行ヒ翌日開業良否ヲトスルノ古例アリ。又森下氏
右古文字証徴ノタメ之ヲ尋問推究シテ官省ニ上達セシ
テアリ。

○紀國當川仙人谷古字

長三尺



ハ陰文

象字



縁ハ一寸許高シ字ハ陰文

紀國當川
石刻古字

明治十年二月廿五日西京新聞ニ和歌山縣田嶋知足ノ報
告ヲ載テ曰ク。當縣ノ正南ノ當川仙人谷ニ一奇石アリ。形
硯ノ如シ。故ニ土人仙人硯ト云地上ニ出ル一纒ニ一尺許
ニシテ文字アリ解スルモノナシ。石質ハ和泉石ト云ヘル
者ノ如シ。何ノ為メニ設ルヲ知ラス。自ラ風雨砂石ニ摺レ
實ニ天工ノ如シト云ヘリ。是レ上記象字^ステ^テニ^ニ

字ナルヲ知ル。然レバ仙人ノステニ石ト云ケムヲ形ノ硯
ニ似タルヨリスバリ石トハ訛リシモノナルベシ。猶實地
ニ付テ探ラバ其義ヲ解キ得ルヲアルベシ。石形ノ荷物ノ
リ仙人ノ捨タル荷ノ化石ナリナド云ル諺^ア是ヲ以テモ
リテ捨荷石ト云ヒ其石名ヲ記セルモノカ、^是ヲ以テモ
上記象字ノ字源ハ確實ナルモノト思ハル、ナリ。

○琉球ミヤコ嶋住民覺帳ノ寫
東京人類學會第十號
明治十九年十二月報

告ナ

琉球ミヤコ嶋ノ住民ガ用ケル文字ニテ覺帳ノ一部分ヲ
透キ寫シニセシモノナリ。月日ハ支那字ナレド書キ方ニ
異ナル所アリ。他ハ其意ヲ詳ニセザレド^ハ薪^ハ鳥^ハ
ハ魚ノ由ヲ聞ケリ。其下ニ記セシハ各ノ數量ナルベシ。鳥
ト魚トハ其物ノ形ヲ畫キシ事明ナレド薪モ亦木ノ小片

ヲ集メタル狀ト見ユ七月ノ部中最后ノ一字ヲ除ケバ終
ノ七字八月ノ部ノ終ノ七字ト全ク相同ジ何事ヲ記セシ
カ知り度モノナリ。讀者諸氏若シ是等ノ文字ノ意義組織
或ハ他ニ類似ノ文字アル事ヲ知ラバ通知アラムコトヲ
乞フ。

七月廿六日

琉球ミヤ
コ嶋字

七
七
三
三
二

年ヲ經タルヲヒネ
ト去、此所ニテハ古
キ薪ヲ去カ、
ハ根カ、

昔
全
上
立

世
ハ四字
連合木名カ

八月二日

昔
全
上
立

ナシハ魚名カ
カネハ金カ

昔
全
上
立

カシフハ檀カ

此字ハ上記ニ類似セリ。唯鳥形字上記ニナシ異体ナルベ
シ。數字ハ南部曆ニ類似セリ。五ハ十二ナルベシ。南部曆ニ

○日本古代文字考下卷

○十

小松館藏

⑩ヲ十二トス。⊗ハ十三ナルベシ。守恒數字ニ〇ヲ一トス。一十同位ナレバ此字ニテハ〇ヲ十位トシ木ノ三線ヲ加ヘ十三トセシナルベシ。月日ノミ漢字ヲ用キ記事ニハカタカナヲ用キルハ奇ナリ。今カナヲ附ケタレド猶誤アラム。住民ニ付テ訂スベシ。

●第十四章通用假字

通用假字トハ今世通用スル象字平字ヲ云フナリ。平ガナトル字ノ義ニシテ象字ハ豐國字阿比留字六行成字ヨリ出タリ。然シテ此象字ノ古書中ニ見エテ今通用セザルモアリ。之ヲ通用象字古体ト名ク。又此象字ノ中ニハ全ク漢字ノ偏傍及草体ヲ取レルモノキニ非ズ。又漢字ヨリ出ザルモ漢字ノ体ニ似セテ書ケルモアリ。之ヲ混同ト名ク。唐筆ヲ用ルヨリ自

寂昭イロハ

然漢字ノ筆法ナル所以モアルベシ。又伊呂波假字ハ此象字ヲ元ニテ漢字ノ草体ニ折衷シタルモノト見エタリ。此伊呂波モ今世通用スルハ空海ノ書体ニハアラザルベシ。長保三年延曆寺ノ僧寂昭ガ宋ニ入テ傳ヘタル伊呂波ナド空海ノ字ニ近キモノナルベシ。寂昭ノ空海百六十年ナリ、長保ハ今ヲ距ル九百年ニ近シ、世ニ空海自筆ノ伊呂波ナドアレド信ジ難シ、書史會要曰。日本國於宋景德三年嘗有僧入貢不通華言善筆札。命以牘對。名寂昭。彼國自有國字。字母僅四十有七。能通識之。便可解其音義。云々

ろろ海以海へ止 ありねるねあか
あはれり流紋の らびうみの乳あ

ろくけふそし
あとき何あそし
忽いしせり

海篇正宗以呂波音訓傳引用ニ載スル所大凡同ジケレド出ハ歩ホ人ル子ル
尤フ比タじムのノウハ歩フ生キもキ予シてシ魚エナド聊カ異ナリ。

空海ノ伊呂波字ハ如此モノナリシナルベシ。源氏物語梅枝ニ

萬のこと昔ハおとりぎまにあさく成ゆくよの末ふりど

カナノ進

このふのふむ今の世ハハときハふくたりたりトアレバカギリナクスグレタリノ意

空海ガ伊呂波ヲ書キシ頃ハ字体初々シキモノナリシガ紀

貫之ナド出テカナヲ漢字ノ草体ト能ク混同シ源氏物語ノ

頃ニハ字体モ筆法モ空海ノ時代ニハ勝レリシナルベシ。

日本紀私記曰。伊呂波者弘法大師所作之由申傳歟此者自昔

空海和字

ニ由テイ

ロハガナ

ヲ作ル

カナハ空

海以前ニ

アリ

カタカナ

ハ其備公

ノ作ニ非

ズ

傳來之和字イ伊呂波ル被作成之起也。トアルニ眼ヲ注グベ

シ。文藝類纂ニ去大師年譜ニ據ルニ假字ノ起レルハ空海ヨ

リ前ト為スベキガ如シ。大師年譜ニ或記去弘仁十年六月一

日去去。大師令授與大工印明。同其夕方此真言令忘失仍テ實

惠ニ大工奉問處實惠カナノツキヤウアヤシミ給ヒテ高祖

御前詣奉問。略トアリ。伊呂波歌ハ空海ノ作ナルベケレド此

二條ヲ以テカナト去モノハ空海ヨリ前ニアリシヲ知ベシ

又カタカナヲ吉備真備公ノ作ト去モ所見ナシ。正平ノ頃右

大將長親法名明魏ガ書ケル倭片假字及切義解ニ。到於天平勝寶

年中右丞相吉備真備公取下所通用于我邦假字四十五字省偏

旁點畫作片假字。去々トアレド真備公卒後六百年バカリ後

ノ説ナレバ証トスルニ足ラズ。

日本紀私記ニ昔ヨリ傳來ノ和字ニ由テ空海伊呂波ヲ作
ルト云ヒ。新井白石ハのへつ等ハ肥人書ヲ取レリト云説
ニ由テ考フレバ通用象字^{カタカタ}ハ豐國字阿比留字等ヨリ出テ
平字^{ヒラガナ}ハ通用象字ヨリ出テ漢字ノ草体ニ混同シタルモノ
多シ。全ク漢字ノ草体ヨリ出タルモアレド其体ヲ和字ニ
似セテ書ケリ此所ニ字ノ出所變化ヲ聊カ辨ゼムトス。

豐古 豐國字古体 豐新 豐國字新体
阿真 阿比留字真体 阿草 阿比留字草体
通古 通用象字古体 通近 通用象字近体
平字 平字即伊呂波 海篇 海篇正宗
書史 書史會要 貫之行成等ハ名ヲ記ス

以上煩ヲ除カム為メニ符合ヲ以テス。

象字平字
ノ出所

ア 阿真^ア阿草^カ豊古^フ

ワ^ワわ^ワ 豊古^フ輪ノ象形○ヨリ出タリ。歌繪ニモ○ト書ケリ。

通古 ○○○○ニ作ル。通近 ワカニ作ルモノハ○ノ
轉ナリ。平ニわ^ワニ作ル。和王ノ草ニ混同ス。
井^イ 阿真^ア○^イ豊新^フ通古^フキニ作ル。井ノ漢字ト混ズ。
工^イ 阿草^カ工^ク
エ^エ 阿草^カ瓦出雲字^ワ通古^フ且海篇^フ名書史^フ互平^フ互ニ作ル。
ウ^ウ 惠ノ草ニ混同ス。
ウ^ウ 阿真^ア早^ハ阿草^カ通古^フウ^ウシ俊頼^フシニ作ル。通近^フウ^ウ平
ヲニ作リ漢字ノ字ニ混同ス。
ヲ 阿草^カ乃^ハ阿波^ハ字ヲ通古^フウ^ウヲニ作ル。
イ^イ 阿真^ア川^カ書史^フり通古^フイ^イ行成^フイニ作ル。漢字ノ以ニ混
同シイニ作ル。豊古^フ乃^ハ阿真^アイニ作ル。通近^フイニ作ル。
是ハ阿行^ハナリ。豊古^フ象形^フ豊新^フヲ通古^フヨニ作ル。

夜行也又尹ニ依ルハ阿草ノキナリ。漢字ノ尹ニ非ズ。尹ヲイノ假字ニ用キシ例ナシ。

ヤ 豊古象形^巾豊新^巾海篇^巾通古ヤニ作ル。通近ヤ平ヤ漢字ノ也ニ混同ス。

ユ 豊新ユ阿真工通古ユ^工ニ作ル。六行成字^ノ

ヨ 阿真^工阿草^工通古カ力漢字ノ加ニ混同ス。

キキ 豊新キ通古キ^方行成^方海篇^方志ニ作ルキ^方ニ轉ジ漢字ノ幾ニ混同ス。

クク 阿真^工豊新^工通古ク^方書史^方了ニ作ル。ク^方ニ轉ジ漢字ノ久ニ混同ス。

ケケ 阿草^方通古ケ^方通近^方ケ^方ニ作ル。ケ^方ニ轉ジ漢字ノ

ケ計ニ混同ス。

ココ 阿草^方諺文^方通古コ^方書史^方道風^方行成^方ニ作ル。コ^方ニ轉ジ漢字ノ己ニ混同ス。

ササ 阿草^方比^方通古セ^方海篇^方セ^方ニ作ル。サ^方ニ轉ジ漢字ノ左ニ混同ス。

シシ 阿草^方通古シ^方書史^方乙^方行成^方シ^方ニ作ル。漢字ノ之ニ混同ス。

ス 豊新^方久^方阿真^方入^方諺文^方入^方同^方激^方切^方音^方不^方同^方濁^方音^方大^方通^方古^方瓜^方瓜^方阿草^方瓜^方ニ作ル。瓜^方ハ漢字ニ非ズ。漢字ノ瓜^方ヲ^方シ^方ノ假字ニ用キシ例ナシ。

セセ 阿草^方セ^方通古セ^方通新^方セ^方平^方世^方漢字ノ世^方ト混同ス。

ソ₃ 阿真₁阿草₂已通古₃ニ作ル。通新₄ソ書史₅了平₆了。

タ_た 阿草₁夕₂夕₃八書史₄八ニ作ル。通古₅夕通新₆夕平₇た₈漢字ノ太多ニ混同ス。

チ_ち 阿草₁廿通新₂チ平₃チ漢字ノ千知ニ混同ス。

ツ_つ 阿草₁了通古₂い₃以₄川漢字ノ川₅ヲ訓假字ニ用タリト士ハ怪シ。川₆ヲツ₇ノカナニ用タリト士ニツキテハ種々ノ説ハアレド未ダ他ニ川₈ヲツ₉ト士シ証ヲ見ズ。訓假字ナレバ津字ヲ用ウベシ。然レバ祝詞文等ノ漢字ノ中ニ川₁₀字ヲ用キタルハ却テ我古字₁₁以₁₂ノ混₁₃レ入りテ遂ニ漢字ノ川₁₄字トナリシニハ非ルカ。書史₁₅伎₁₆ニ作ル阿草₁₇以₁₈字ナルベシ。漢字ノ徒ニ混同ス。

テ_て 豊古象形₁ウ豊新₂予₃テ通古₄チ₅テニ作ル。ハ阿草₆己₇了ノ轉ナルベシ。祝詞文等ニ互₈字ヲ用キタリ。漢字

己_己 氏ノ古字₁互₂ニ作レド或ハ我古字ノ漢字中ニ混入シタルモ知ルベカラズ。漢字ノ天ニ混同ス。

ト_と 豊新₁ト阿真₂口書史₃止₄通古₅止₆才₇ニ作ル。ト₈トニ轉ジ漢字止ニ混同ス。止₉ノ訓ヲト₁₀ノ假字ニ用ルモ怪シ。祝詞文等ニ止₁₁字ヲ用ルハ我古字ノ漢字中ニ混入シタルモ知ルベカラズ。

ナ_な 六行成字₁子₂ニ作ル。ナニ轉ズ。阿真₃下通古₄示₅ニ作ル。ふ₆ニ轉ジ₇な₈ニ作り漢字ノ奈₉ニ混同ス。

ニ_に 阿草₁心₂ニ作ル。漢字ノ一₃ニ混同ス。阿真₄下通古₅午₆ニ作ル。又通古₇尔₈尔₉ニ作ル。漢字爾₁₀ニ混同ス。書史₁₁以₁₂ニ

作ル。阿真_レ仁ノ轉ナルベシ。_レ漢字仁ニ混同シニ
作ル。

阿草_ニ

又

豐古象形_ハ通古ネオニ作ル。子ニ轉ズ。漢字ノ余子
ニ非ズ。漢字ノ爾子ヲネノ假字ニ用キシ例ナシ。

ノの

齋部字_「通古_」子_」ニ作ル。ノニ轉ズ。齋部字_「草_」
ヲのニ作ル海篇_ハニ作ル。阿草_」通古_」乃ニ作ル漢
字ノ乃ニ混同ス。

ハは

豐新_ハ守恒字_ハ漢字ノ八ニ混和ス。阿草_ハ海篇_ハ
書史_ハニ作ル。ハニ轉ジ。漢字ノ波ニ混同ス。

ヒひ

阿草_」通古_」ヒ_」ニ作ル。漢字ノ比ト混同ス。
豐新_」阿草_」海篇_」ハ_」ニ作ル。フニ轉ジ。漢字ノ不ニ

フふ

混同ス。六行成字_」通古_」フ_」ニ作ル。漢字ノ不ニ

ヘ

六行成字_」通古_」フ_」ニ作ル。漢字ノ不ニ
作ル。皿ノ草トスル說_」ア_」レド_」皿_」ヲ_」ヘノ假字ニ用キ
シ例ナシ。

ホ

豐新_」阿草_」シ_」阿真_」全_」ノ略_」通古_」早_」早_」小_」字_」漢字ノ
保ニ混同ス。

マ

豐古_」豐新_」マ_」伊豫字_」丁_」阿草_」ニ_」皆似_」タリ。通古_」マ_」丁_」
マ_」ニ作ル。

ミみ

豐新_」通古_」ミ_」行成_」之_」漢字ノ三ニ混同ス。又阿草_」弓_」
通古_」刃_」刀_」書史_」弓_」海篇_」子_」ニ作ル。ミニ轉ジ。漢字ノ美
ニ混同ス。

ムむ

豐新_」乙_」書史_」乙_」貫_」之_」九_」ん_」ニ作ル。ムニ轉ジ。漢字ノ武
ニ混同ス。

ニ混同ス。
 豐新ノ通古又メ豐古〇ニ作ルメニ轉ジ漢字ノ女
 ト混同ス。
 阿草也〇通古之之毛書史ニ行成也道風也貫之丸
 人漢字ノ毛ニ混同ス。
 豐古ヲ通古ララニ作ル。漢字ノ良ニ混同ス。
 阿真〇諺文引通古ノリ漢字ノ利ニ混同ス。
 豐新ル阿草也通古ル
 豐新レ阿草也通古シレレ
 阿草也通古メニ作ル。口ろニ轉ジ漢字ノ呂ニ混同
 ス。
 阿真〇諺文終聲ニシヲント呼ベリ。通古〇レニ作
 ン

通用カタ
カナ古体

カ 力論 か延	ア 以醫ホ延 漢法	イ 子江 夫同	ウ ウウ ウ同	エ 又朗 文神上假	オ 才後 才類
コ フ万 己漢	キ 本後 後道 漢木延寸同寸元	ウ ウウ ウ同	ク 久延 口類ク法	ケ 人元 人管	カ カ カ
カ 力論 か延	ア 以醫ホ延 漢法	イ 子江 夫同	ウ ウウ ウ同	エ 又朗 文神上假	オ 才後 才類
カ 力論 か延	ア 以醫ホ延 漢法	イ 子江 夫同	ウ ウウ ウ同	エ 又朗 文神上假	オ 才後 才類

ル。又んと轉ス。
 以上我考フル所カクノ如シト雖在猶當ラザル
 モ有ルベシ。後人ノ考ヲ待ツ。
 ○通用象字古体
 此ノ象字古体ノ中ニ平字ノ雜リタ
 ルヲ以テ平字ハ象字ヨリ出タルヲ
 知ルベシ、

。日本古代文字考下卷

。十七

小倉金龍

テ チ今 延	ト 七延 新上朝	ナ 示延	ニ 余代尔類 子不類イ釋	ホ 呆延呆記 早ト号將 早朗小類 了安	ム 止點 九丸 將	ヨ 夕江 夕類 漢	ロ メ延 六類	ウ シウ 同漢
ハ 八論	マ 業百令 丁漢	ヒ 七百 シ医 才類	ミ ミ類 夕催 了安	モ 七古 七類 後	リ リ尚 漢	ワ 玄 道	井 斗古 力延 伊	
ナ 余代尔類 子不類イ釋	ル ル古 群	ヤ ヤ將 假	ユ ユ將 二假 内延	ル ル古 群	工 丑蒙 己字 玄	ヲ ウ今 道今 朗		

引用書目 此所ニ引用セルトハ文藝類纂中ニ柳原芳
野氏ノ集録スルトコロニ由テ増減ス

医略抄 柏木正矩藏延久日本漢書
假木正矩藏假字日本紀
神橋秀賢神代紀抄
類聚名義抄
无量壽經訓
大江孝言本万葉集假字
今義解古本訓要
古寫本百寮訓要
中家尚書
藤喜式古本傍訓
江家次第古本傍訓
後撰集片假字本抄
道風書佛經訓点
安齋叢書

●第十五章名字ノ語源

物アレバ名アリ名アレバ之ヲ記スニ字ナキヲ得ズ。字ハ名

法筆玄代朝蒙將集管点記字釋群新古今
法筆玄代朝蒙將集管点記字釋群新古今
法筆玄代朝蒙將集管点記字釋群新古今
法筆玄代朝蒙將集管点記字釋群新古今

字
モシ

ノ目標ナリ。故ニ字ヲナレマナレミナレ去ヘリ。ト兆ヲマニ
 ト去フモ真字ナリ。是實ニ字ノ起源ナレバ真字トハ去フナ
 リ。神ノマニマニノマニトスル説ハ取ラズ。マネグマナブハ
 マナノ活語ナリ。事ヲ知ラムトセバ先ヅ字ヲ學ブベシ。故ニ
 マナブノ語アリ。マニヲマナレ去フ。田町町家區々等兆圖ヨ
 リ出タル語也。此マチヲモジレ去シテ通音ナリ、ウカ、古今集
 ノ序ニ神代ハは歌のトも定ラレトアレバ古代ヨリモジ
 ノ語アリ。モジ以テ歌ヲ記セルヲ証スベシ。考ニ去ハ此モジ
 ヲ後世モンジト去ヒ文字ノ字音トスルハ誤レリ。モジヲモ
 ンジト去ハマナヲマンナト去ニ同ジ。鶴峰氏ハマナハ兆古
 歌ニ陸奥の志ミナトクはぶもぢぢりたれゆゑ小去々。鶴峰氏去。古註
 ニ文字ズリノ意ナリトアリト。近來信夫郡ニテモヂズリノ

モヂズリ

石ヲ掘出セルヲ見レバ

𠄎𠄎𠄎

カクノ如キ圖アリ。此石ヲ布ニスラバ薩摩ガスリノ如キノ
 圖ヲ深メ出スベシ。是レ兆圖ノ略ナルモノニテモヂズリノ
 由來モ明ナリ。然レバ志のぶもぢぢりもぢぢりト詠ルハ
 モヂズリノ田トツバケテ誰ト去フ語ヲ呼起シタルナルベ
 シ。兆圖田町ノ又マチノチマネノネヲテ凡轉ズルナリ。筆
 手テ水手ノテハ手ノ義ニ非ズ。字ノ義ナリ。筆手ハ源氏物語ノ
 古註ニ海での色葉ハ筆の葉ふり小文字をあくなり。一本
 筆の葉の中トアルガ源ナルベシ。サレド物語ニハ字ニテ繪
 ヲカタラモ去ヒ其他種々ニ用ウルナリ。水手ハ著聞集ニ見

筆手水手

文

エタリ。是レモ水ノ流ル、ガ如クスラ、ト書ル字体ヲ古
フガ源ナルベシ。

文ヲフミト訓ムモ字音ニアラズ。韻鏡第二十轉文韻文ハ
ニフヌト古フ例ニテフミフムトハ古ベカラザル例ナリ。

●第十六章朝鮮諺文

慵齋叢語 此書十卷朝鮮共成文公所著 世宗 應永二十六年明永樂十七年即位 設諺文廳命

申高靈成三間等製諺文終聲八字中聲十一字其字體依梵字

為之。本國及諸國語音文字所不能記者悉通無礙。洪武正韻諸

字亦皆以諺文書之。古々 中聲ノ上ニ初聲八字ノ四字ヲ脱ス

諺文三説

朝鮮語學士鮎貝房之進古。諺文ノ起原朝鮮ニ三説アリ。一古

諺文ハ吏道ヨリ出ヅト。吏道ハ新羅三十一世神文王 天武帝白鳳十

元年即位。漢字ノ偏旁ヲ取テ作レルモノ也ト。二古。梵字ニ由

諺文ハ日本ヨリ傳

テ製ル。三古。古來國字アレハ一旦廢滅セシヲ世宗ノ世ニ修
飾ヲ加ヘテ再ビ用法ヲ定ムト。此説ヲ主張スルモノハ古器
物等ニ遺存セルヲ以テ証トスト古フ。

薩摩人圖師崎某久ク朝鮮ニ滯留セリ。古ク。諺文ハ日本ヨリ
傳ヘタリト古フ。朝鮮ニ其説アリト。鮎貝氏古。吾輩未ダ此説

ヲ聞カズト雖モ朝鮮ニテ日本語學館ヲ設ケテ日本語ヲ學
ビシハ確實ナリ。

阿比留字ハ諺文ノ前ニアリ

如此諺文ニ付テハ種々ノ説アレハ文字組織ヲ以テ考フ
レバ阿比留字ト其始メトニカク同一ノモノナルハ疑ヒ
ナシ。日本紀私記ノ肥人書ノ説既ニ千年以上トス。此他下
野赤麻村古碑ノ字及ビ神田孝平氏ノ石劔頭ノ古字等何
レモ千年以上ノ古物ナルベシ。然レバ諺文ヲ日本ヨリ傳

へタリト士モ理ナキニアラズ。
 然シテ始メ此文字ヲ製ルハ極メテ明瞭ナル理ヲ以テセシ
 モ現今ニ至テハ朝鮮人ニシテ製字ノ理由及ビ組織法ヲ知
 ルモノナク此方ヨリ其法ヲ示スモ解シ得ズ。中人以上ハ漢
 文ヲ用キ諺文ハ中人以下ニ行ハルト云ヘリ。
 朝鮮ニ活語アリ。助辞アリ係結ヲ過去現在未來アリ。本邦ノ
 歌文ノ如シト士。諺文ニハ阿比留字草体ノ如キ草体ナシ。唯
 諺文ヲ走り書キニスルナリ。漢字ノ行体ノ如シ。我邦ノ古字
 ニハ「丁」等ノ如ク字母ヲ直チニ文章ニ用キルコトアレド
 モ諺文ニハ字母ヲ直チニ文章ニ用キルコトナシ。鮎貝氏ノ
 説ヲ聞キイマアラタニ一圖ヲ製シテ訂正諺文圖ト名ヅケ
 タリ。

朝鮮活語

訂正諺文

古代諺文ノ讀法ヲ知ラシム
 ル為メニ其字母ニ漢字ヲ當
 タリ「其從」ニ隱シ如シ「
 ヲ」キ凡ク凡「」ヲニ凡又凡
 プベキ由ヲ知ラセタルモノ
 ナルベシ今ノ朝鮮人ハキヨ
 ツクニウ又ト呼ブハ何ノ「
 タルヲ知ラズト云フ、
 「未」衣芒笠等ノ未衣笠傍
 音ハ朝鮮ノ詞ニシテ我邦ニ
 所謂訓ナリ、

朝鮮ガ「ギ」ゲ「ゴ」ノ字音ナシ
 故ニ「雁我義銀」五ト呼ベム
 ○ヲ如行半濁ノ鼻音トス訓
 蒙字會ヲ按ズルニ始メ○
 ノ二字母ヲ依レリ後世混ジ
 テ○ニ依リテニグト呼ブ然
 レ此活語「」ヲ如キハ○ヲ

日本古代文字考下卷

三十一

眞言藏

訂正諺文圖		正音							
父	母	ㄱ	ㅋ	ㆁ	ㄷ	ㅌ	ㄴ	ㄹ	ㅇ
가	나	다	라	마	바	사	하	아	ㅇ
기	니	디	리	미	비	시	히	이	ㅇ
구	누	두	루	무	부	수	후	우	ㅇ
고	노	도	로	모	보	소	호	오	ㅇ

阿行ノ字母トセシニテ今モ
 阿行ノ字母ナリ
 朝鮮現今ケセテネヘメエレ
 エト去音ナシト、齊^チノ如キ
 音近シ常ハオヲヨニヒバカ
 スルナリ、^同下^下去^去フガ如シ
 サレ凡古ヘハエニヒバカセ
 タリト云フ、但僻遠ノ地ニテ
 ハ今モオヲエニ韻スル多シ
 是レ古音ノ存ルナリト去ス

		音								拗	
父	母	○イ 異	へシ 時	古ヒ 非	口ミ 眉	己リ 梨	口チ 池	レニ 尼	フキ 其	父	母
ハ	キ	ハ	ハ	ハ	マ	ラ	チ	ニ	キ	ハ	キ
ト	ク	ト	ト	ト	ム	リ	チ	ニ	ク	ト	ク
チ	キ	チ	チ	チ	ム	リ	チ	ニ	キ	チ	キ
ハ	キ	ハ	ハ	ハ	マ	ラ	チ	ニ	キ	ハ	キ
ハ	キ	ハ	ハ	ハ	マ	ラ	チ	ニ	キ	ハ	キ
ハ	キ	ハ	ハ	ハ	マ	ラ	チ	ニ	キ	ハ	キ
ハ	キ	ハ	ハ	ハ	マ	ラ	チ	ニ	キ	ハ	キ
ハ	キ	ハ	ハ	ハ	マ	ラ	チ	ニ	キ	ハ	キ
ハ	キ	ハ	ハ	ハ	マ	ラ	チ	ニ	キ	ハ	キ
ハ	キ	ハ	ハ	ハ	マ	ラ	チ	ニ	キ	ハ	キ

小
村
金
藏

激切音ハ我邦ノ半濁音ニ近
 シ濁音ハ我邦ノ濁音ニ近シ

拗		切		激		音		濁		音		切		激	
父	母	父	母	父	母	○	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
ハ	キ	ハ	キ	ハ	キ	○	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
ハ	キ	ハ	キ	ハ	キ	○	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
ハ	キ	ハ	キ	ハ	キ	○	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
ハ	キ	ハ	キ	ハ	キ	○	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
ハ	キ	ハ	キ	ハ	キ	○	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
ハ	キ	ハ	キ	ハ	キ	○	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
ハ	キ	ハ	キ	ハ	キ	○	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
ハ	キ	ハ	キ	ハ	キ	○	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
ハ	キ	ハ	キ	ハ	キ	○	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
ハ	キ	ハ	キ	ハ	キ	○	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ

○日本古代文字考下卷

三十二

小
慎
舍
哉

我邦現今漢異音ヲ用レド古ハ百濟音ヲ用キシナリ古書ニ香ヲカグ遠ヲタルト古ガ如キハ皆百濟音ナリト知ルベシ、

終聲音中レヲニト呼ブハ訛ナリ本邦ニテモ難丹ノ類ヲ古ヘハナニタニ等ノ假字ニ用キタルニ同ジ我邦ノニ字ハシ字ヨリ出タレナルベシ

音 聲 終			音 拗 濁			音	
木 <small>モク</small>	的 <small>テツク</small>	角 <small>カク</small>	ㄱ	ㄴ	ㄷ	大 <small>テ</small>	正 <small>テ</small>
辰 <small>シン</small>	天 <small>テン</small>	難 <small>ナン</small>	ㄴ	ㄷ	ㅈ	大 <small>テ</small>	正 <small>テ</small>
		笠 <small>カツ</small>	ㄷ	ㅈ	ㅊ	大 <small>テ</small>	正 <small>テ</small>
	列 <small>レツ</small>	連 <small>レン</small>	ㄷ	ㅈ	ㅊ	大 <small>テ</small>	正 <small>テ</small>
		金 <small>キン</small>	ㄹ				
	入 <small>ニツ</small>	習 <small>シツ</small>	ㄹ				
		衣 <small>イ</small>	ㅍ				
	名 <small>ミン</small>	張 <small>チャン</small>	ㅇ	ㅇ	ㅈ	大 <small>テ</small>	正 <small>テ</small>

第十七章 沖繩字

琉球神道記 慶長中并蓮社袋中ト去ル僧、琉球ニ在テ馬幸明ノ需ニ應ジテ著ス所ト去フ、昔此國ニ天人下リ文字數百ヲ教ヘタリ。其處ハ中城ノ近里ナリ。其後天人其文字ノ書ヲ半バ裂キテ天ニ上ル故ニ其字少シトテ載セタル

琉球字

ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ

字カクノ如シ。此字ニ十幹十二支ノ傍注ヲ加ヘタレド此傍注ハ字形ノ十二支ニ似タルモノアルヲ以テ後世附會セシナルベシ。按ルニ此字ハ○□▽ㄷノ字・|VY)(T)上ノ一等ノ字ノ連合体ヨリ成立テルモノニシテ伊豫字夷奴字ニ似タリ。左ノ石器ノ臺字ニ同シ。讀法及ビ文意ハ詳ナラズ。

又石器ノ表面ナルハ字カ若クハ神像ナルベシ。
大阪博覽會出品石鏡

石鏡字

甲全形
縮寫



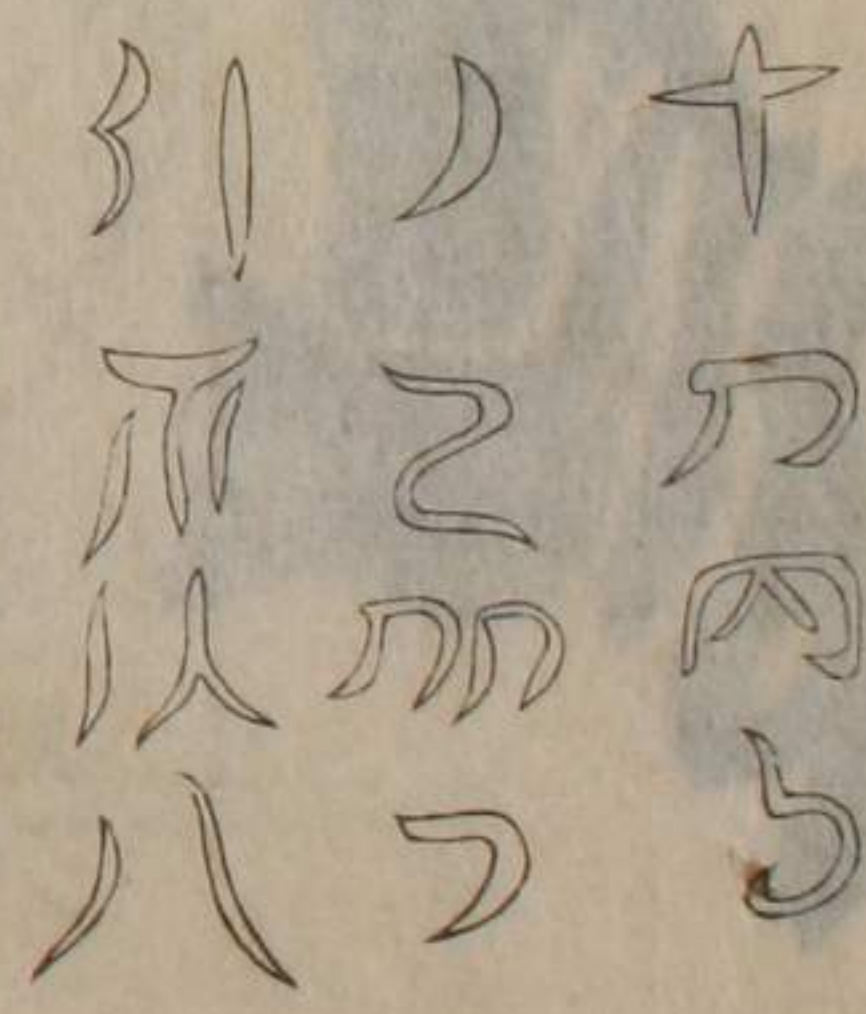
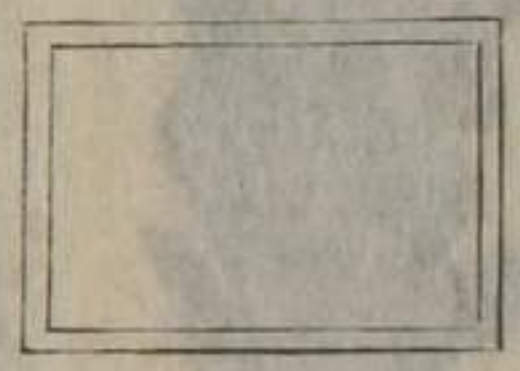
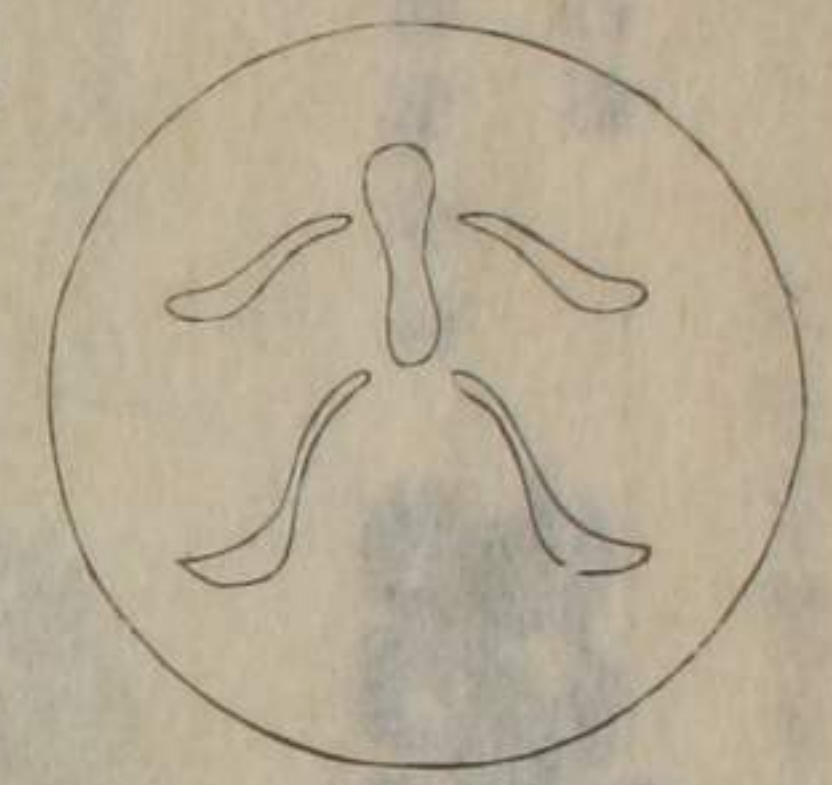
鏡徑七寸五分 厚壹寸五分 臺高サ三寸七分
乙裏面全形縮寫

丙摸寫表面
字凸彫



丁裏面字模寫人形方形陰文

戊臺字模寫陰文



此字傳附錄ニ三輪社ノ額字ナリトテ石器ノ表面ナル字ヲ載セクリ。今其額藏在興福寺庫中ト古奥書アリ。サレド今興福寺庫中ニ在ルヲ聞カズ。三輪神社ノ額字ト古ハ甚信ジ難シ。然ルニ直澄明治九年大阪ノ博覽會出品中ニ一ノ石器ヲ見タリ。直ニ宮地嚴夫氏ニ依頼シ好事家ニ有名ナル小林稻郷ヲ以テ寫サシム。所有主ヲ聞漏シタルハ遺憾ナリ。臺ニ古

木簡
科斗書

字ヲ刻シ裏面ニ方圓形人体形ヲ刻シタルヲ見レバ漢土天圓地方ノ説ニ由テ天地人トスルハ非ナラム。是ハ兆象ノ起原ニシテ下野二荒山神社所藏ノト兆器ノ圖ト同圖ナルベシ。第二章ニ古ヘルガ如シ。然シテ此器ハ琉球人ノ製ル所カ。字ハ琉球古体ノ字ナリ。

中山傳信錄云。元陶宗儀云。琉球國職貢中華所上表用木為簡。高八寸許厚三分濶五分飾以髹釦以錫貫以革而橫行刻字其上。其字體科斗書。

此琉球ノ貢表木簡ノ狀ヲ見ルニ甚古体ナルモノニテ元ノ時代ノモノニ非ルハ明クシ。サレバ陶宗儀何レノ書ニカ載スル所ノモノヲ取テ記セルナルベシ。琉球ノ初メテ漢土ニ通ジタルハ隋ノ世ナレバ隋時代ノ書ニ載セタル文ニ由レ

ルカ。寸法脩飾マデ記シタレバ虚言トハ見エズ。然ルニ隋書ニ琉球文字無シトアルハ彼此合ハザル如クナレド百濟開闢以來未有文字ト東國通鑑ニ見エタルト同ジク此文字ハ漢字ヲ指セルモノト見ユレバ害ナシ。

鳥跡古篆

閩書呂宋ノ條ニ南倭北虜皆有文字類鳥跡古篆。案其初有達人制之ト記シ新井氏云漢土ニテ琉球ヲ南倭ト云ヒ蝦夷ヲ北倭ト云フト又續博物志云。

横書左書
結繩鏤木

倭辰余國或横書或左書或結繩或鏤木按ニ辰余國ハ辰韓扶余ナルベシトアリ。

此等ノ書モ皆我邦ノ近時ヲ去ニ非ズ。我文字ノ説ヲ記セル古書ニ據レルモノナルハ明ケシ。左書横書決シテイロハ文字ニ非ルナリ。

前章ニ琉球宮古嶋ノ文字ヲ載セタリ。是モ一種ノ沖繩字ナ

琉球國初

リ。

沖繩字ニ就テ琉球國初ノ説ヲ聊述ス。新井氏ノ南嶋志ニ僧袋中南輯録異聞ヲ載セテ曰ク。鴻荒ノ世ニ二神炎海

洲ニ下ル男ヲシネリキユ女ヲアマミキユト云フト。按ニ中

山世譜球陽二書ニ志仁禮久阿麻彌始トアル是也。二神三男

二女ヲ生ム長男ヲ君主ノ始トス。天孫氏ト號スト。按ニシネ

リキユハスメラギノ訛言ニテ天皇ノ稱ナルベシ。アマミコ

ハ天女子ノ義ナルベシ。然シテ世々天孫ヲ以テ氏トセレバ

國初ノ神ハ我が皇裔ナル論ナシ。歷年一万八百餘年代數詳

ナラズ。或ハ古フ琉球ノ名ハシネリキユノリキユヨリ出タ

リ。流求流虬瑠求等ノ字ハ假借ニシテ義有ルニ非ルナリ。説

新井氏ノ明辨ニ讓ル。然シテ我古史ヲ見ルニ此シネリキユハ何レノ

神カ詳ナラズ。神武紀ヲ按ルニ神武帝始メ長髓彦ト戰テ利
アラズ。五瀨命毒矢ノ為ニ薨ジ紀伊熊野ノ神邑ニ到リ暴風
ニ遇ヒ稻飯命ハ新羅ニ渡航シ說略三毛入野命ハ浪秀ヲ踏
テ常世ノ國ニ往マストアリ。按ニ此常世國ハ琉球ナルベシ。
琉球ニ波上神社アリ。熊野神ヲ祀ルト。紀伊ノ熊野ト云ヒ浪
秀ト云ニ由アルガ如シ。琉球北ヲ國頭ト云ヒ南ヲ嶋尻ト云。
大嶋ヲ阿麻彌嶋ト云フ。其東北ニ山アリ。神人ノ降ル所阿麻
彌嶽ト名ク。大隅國永羅部嶋ヲ阿麻彌洲之渡ト云フト此レ
等ノ地名ヲ考フルモ我邦ヨリ神人ノ渡リシト明瞭ナリ。如
此ナレバ字モ亦其神人ノ傳フル所ノ我古字ナル著シ。

●第十八章龜書

列子曰。渤海之東有壑焉。其中在山無所連著云々。龍泊國有大

龜曆

人舉足不盈數十步。而登五山之所。一釣而連六鰓合負而趨歸
其國灼其骨數焉。龜。内内外骨。易云。極數知來之謂占。
書史會要曰。帝堯陶唐氏外國進一巨龜背濶三尺。上有斜斗文
記開闢以來。堯命作龜曆。

龜書

又云。或曰黃帝游扈水上。靈龜負圖至。帝嘉其應。作龜書。
水經注曰。黃帝東巡。河過洛。修壇沈璧。受龍圖於河。龜書於洛
赤文篆字。

又云。或曰洛龜負圖。禹觀而得九疇之文。三者皆龜書。未知其孰
是。以上書史會要

箕子ト筮
ヲ文王ニ
傳フ

殷衰ヘ箕子國ヲ避リテ韓國ニ留リシ間ニ周武王ノ紂王ヲ
弑テ王タリト聞テ箕子本國ニ還リ武王ニ洪範ヲ傳ヘシ中
ニ誓疑トテ龜ト筮ト占ノ法ヲ傳ヘテ又韓國ニ入リシト見エ

タリ。燕北雜記ニ契丹トスルニ白羊琵琶骨ヲ用中元史ニ太
方ニ傳レルモカ龜ト法ハ漢土ニ絶エタルヲ箕子此龜ト
法ヲ朝鮮ニ得テ武王ニ傳ヘタルハ周ノ武王以後ノモノナ
此說ノ如クナラムニハ龜トノ法ハ周ノ武王以後ノモノナ
ルベシ。周以前ニハ確乎タル歴史トテハ無カリシニヤ。孔孟
ノ徒ノ史ヲ説キタリシモ何ノ書ニ由レハ無カリシニヤ。孔孟
ト其書ヲ知ラザル如クナレバ實ニ信ズベキハ周以後ノコ
トナシ。

以上漢土ノ龜書龜ト科斗文開闢ノ傳等ハ漢土固有ノ傳
ニ非ルヲ証ス。

書出東北

大平經曰。文者生於東明於南天文生東北。故書出東北。而天見
其象。是知真文初出在東北也。

倭人ト占

魏志東夷傳ニ倭人去々其俗舉事行來有所去為輒灼骨而ト
以占吉凶先告所卜。其辭如令龜法視火坼占兆。魏志ヲ著セル
陳壽ハ西晋ノ
元康七年死スト晋書ニ見エタリ。應神帝二十八年ニ當ル。廿
レバ其以前我邦ニト法アルヲ漢土ニテ傳ヘタリト見ユ。

以上ノ傳ニヨレバ龜書龜ト等ハ我邦ヨリ漢土ニ傳ヘタ
ルモ知ルベカラズ。惜ラクハ我太古ノ歴史漢トシテ因據
ナシ。

是ヨリ字形ニ由テ龜書ノ出所ヲ説クベシ。

主中ノ字

、 字書云、主也。主君也。掌也。領也。



中 說文云。中和也。从口一上下通也。字書云。中者不偏不倚

無過不及之名。又中央四方之中也。又内也。


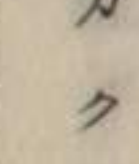
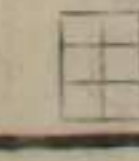
此、中ノ字形天真中主ノ正体ニシテ中點圓象ニ符合セリ。

第一章參
考スヘシ。

龜文ノ字

龜 篆書ニ  

又 字書云。又。交也。易又者言乎變也。篆書  

此二字ニ由レバ龜文ハ   カクノ如クナルベシ。又九疇モ 

カクノ如クナレバ我ト兆圖ト其源同一ナリ。
ト兆占卦、中爻等ノ類此ト兆圖ヨリ出タル字ニシテ龜書
ナル疑ナシ。

●第十九章反對說ノ辨

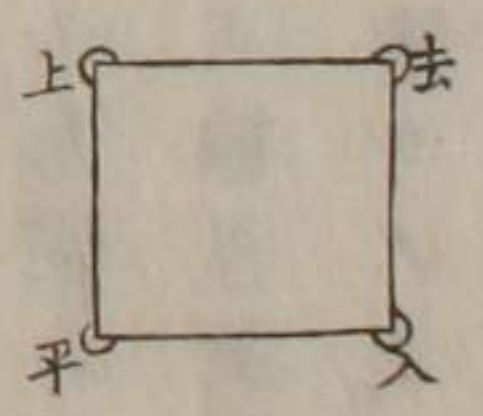
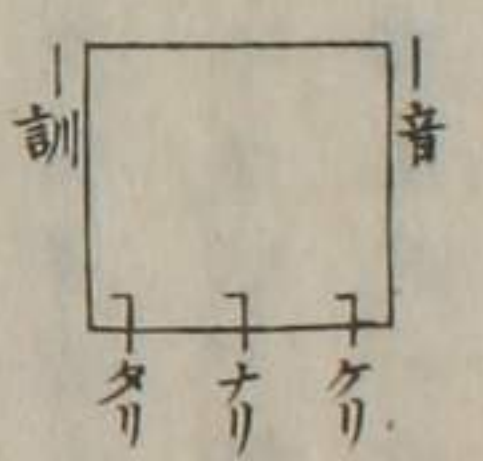
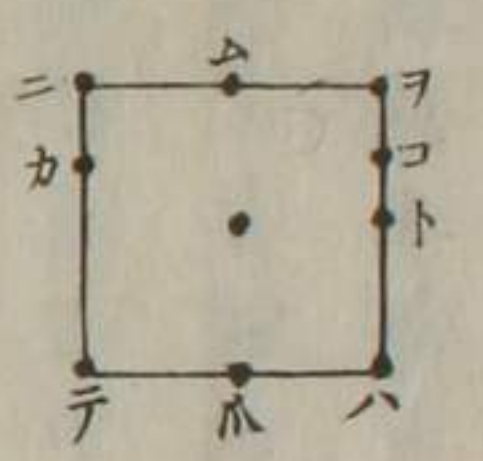
我邦上古文字ナシトスル說ハ大同二年ニ齋部廣成ガ著セ
ル古語拾遺ニ上古未有文字貴賤老少口々相傳前言往行存
而不忘書契以來不好談古トアルニ由ラザルハナシ。此廣成
ガ說ハ說文ニ古故也从十口識前言也。徐曰古無文字口相傳
トアル說文ヨリ出タル文ナリ。朝鮮ノ東國通鑑ニ去。東晉寧
康二年仁德帝六十二年百濟自開闢未有文字至是始有書記ト去ヘ
ルモ漢字ヲ指セルナリ。廣成ガ時世ニ有テハ唯漢學アルノ
ミニシテ我古字ノ如キハ齒牙ニカクル者ナク且我邦ノ習

慣トシテ古事ヲ口傳ニスルヲ多シ。故ニ說文ノ文ヲ假テ發
端トセシノミ。廣成ノ文ハ深意アルニアラズ。其証ハ廣成ノ
子孫ニシテ齋部正通ハ上代文字有リト論セルヲ以テ知ル
ベシ。然ノミナラズ。空海ハ廣成ト大凡同時ノ人ニシテ空海
以前ニ和字カナアルハ前章ニ去ヘルガ如シ。此一言ヨリ中
世以來議論甚多シ。近世ニ至リテ大家ト稱スル中ニ漢學ニ
新井氏文字有リトシ貝原氏等無シトス。國學ニハ本居氏文
字無シトシ平田氏有リトス。文字有無ノ論カクノ如ク紛々
タルモ其源ヲ探レバ唯廣成ガ一言ニヨルノミ。
或曰古ヘ文字アリトセバ古代漢字ヲヨムニヲコト點ヲ用
ルヲ何ノ故ゾ。

答フ。ヲコト點ハ漢土ニテ四聲ヲ知ラスル為メニ字ノ四方

へ圈點ヲ附スヨリ考へ出タルモノナルベシ。中右記ニ古寛治元年十二月廿四日寅今日未刻許有御書始事。以式部權大輔正家朝臣為侍讀。以左少辨敦宗為尚復。其儀如式ニ古々。

ヲコト點
テニヲハ



件三點圖。正家朝臣御書始所注進也。以白色紙小作子書付之。無表紙。

此法ハ東大寺始メ大寺ニテハ其寺限ノ點法アリテ大同少異ナリ。是點圖ノ右ノ肩ノ黑點ヲ讀メバヲコト、ナル。故ニヲコト點ト古又平上去入ノ次第ニ字ノ四方ヲヨメバテニヲハトナル。助辭ヲテニヲハト古モ是レヨリ出ヅ。

今四書五經ニ何點ト古フモ此點ヲ付スニ起レリ。按ニヲコト點ハ寛治以前ヨリ下ザマニハ行レタリトスルモ朝廷ニハ此時始メテ注進セシモノナルベシ。古來朝廷ニテ此法ヲ以テ讀書法トセバ此時改メテ注進スベキ理由ナシ。空海以前ニカナアリ況テ空海以後寛治以前ニカナアルハ明瞭ナルヲヤ。前章ニ然レバヲコト點ハ文字ノ有無ニハ關係セザルナリ。漢文ヲ學バントセバ白文ヲ以テ最トシヲコト點之レニ次グ。カナヲ附スハ頼ム所有テ不可ナリトハ漢文家ノ常談ナルガ如シ。古ヘモ如此懸念セシヨリカナヲ附スヲ止メテ一時ヲコト點ヲ用キシニモ有ルベケレド是モ亦不便ニシテ終ニ行レズ。

日本古代文字考下卷終

内藤存守筆
瀧澤蓑吉刀

日本古代文字考下卷附録

○日本神字考辨妄略

清國沈文煒日本神字考ヲ著ハシ神字日文傳ニ載スル所ノ古字ヲ以テ悉ク漢字ニ附會セリ。予其辨妄ヲ著ハシ悉ク辨論セリト雖セ猶此所ニ一言セムトス。沈氏我邦ノ古字ヲ以テ羲和堯舜ノ時代ノモノトス。然シテ其時代ノ字ノ我邦ノ古字ニ符合セルモノ何レノ國何レノ金石ニ存セルアリヤ其證ヲ載セザルハ不審ノ一ナリ。我邦ノ古字ハ象形字ノ外ハ惣テ字源字母アリ。其組織漢字ノ如クナラズ。此字母ヲ見出サスシテ漫ニ漢字ニ附會セシハ粗漏ノ二也。我邦古字ハ其數五十乃至四十七ノ僅々ナル字數ナレバ漢字數万中ニ就テ類似ノモノヲ求レバ必ズ類似ノ字体アルベシ。尾崎氏

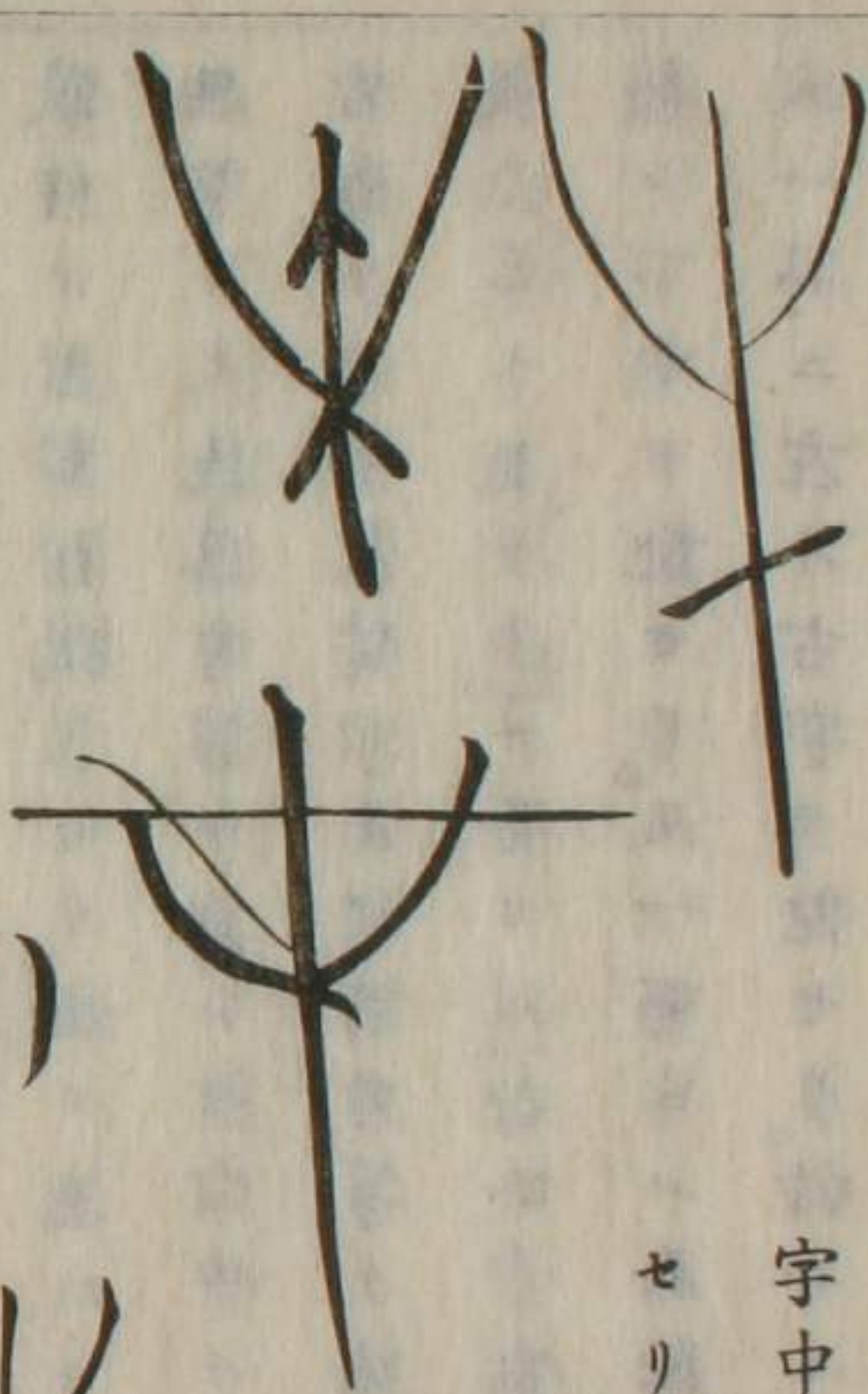
所傳古文。○字ノ如キ梵字ニモ有リテ同音同体ナリ。日文傳
第一文ニ所載○字ノ如キ羅馬字ニ類似ノモノアリ。梵字羅
馬字ノ如キ僅々ナル字數中ニスラ同字類字アリ。況テ漢字
ニ於ルヲヤ。沈氏此理ヲ解セズ字体類似セシヲ以テ漫リニ
漢字ナリトスルハ牽強附會ノ三也。沈氏ノ字解前後不合ノ
モノアリ。☆字ヲ前章ニハ國字トシ後章ニハ百字トスルノ
類是レ隨意解釋タルヲ免レザルノ四ナリ。沈氏ノ解釋其粗
漏大凡如此。其詳細ナル辨論ハ日本神字考辨妄ニ就テ見ル
ベシ。

○松山百穴古字

明治廿一年五月廿一日井上毅小中村義象兩君ト共ニ埼玉
縣下武藏國横見郡北吉見村百穴ヲ一覽ス。百穴ハ松山驛ヲ

距ル十町許松山古城ノ傍ニアリ。仍テ松山ノ百穴ト云フ。監
守人曰此所古來百穴ト名クレ凡明治ノ初年十七許ノ穴ヲ
見シノミナリ。明治七年シーボルト此穴ヲ見テ奇トシテ一
ノ穴門ニ横文ヲ刻メリ。其後根岸大澤二氏協戮シテ土砂ヲ
排除シテ二百三十七ノ穴ヲ見出シタリ。穴中ヨリ金銀環等
數種ノ古器物現出セリ。始メ庶人ニ縱覽ヲ許シタリシカバ
無智ノ人民落書等ヲ為シテ穴中ヲ毀損セシトゾ一所ニハ
古雅ナル佛像梵字及ビ佛名等ヲ記載セリ。又梵字ノ傍ニ弘
長二年ト記セリ。一所ニハ(むかゝ)忘(きか)たみ(ふ)け(り)ト
歌ノ下句ヲ記セリ。又一所ニハ馬狀ノ畫アリ。古雅愛スベシ。
又一所ニ左ノ古字ヲ記セリ。按ズルニ百穴ハ墳墓ニシテ古
代ヨリ弘長ノ頃マデ漸次ニ作り成シタルモノナルベシ。穴

ハ横穴ニテ南向ナリ。



字中ノ中ノ二字ハ判然セリ。其他ハ此字ニ擬ヘテ徒書セシモノ、如シ。

然レ凡是亦近來ノ人ノ所為

ニアラズ。

川



ニアラズ。

蝦夷字中ノ木

ノ等アリ。此等ノ

字ヲ連合シテ書ケル

モノ、如シ。字ノ大ナル

モノ五寸許ナリ。



Handwritten text in cursive style, likely a sample of the '蝦夷字' (Ezo script) mentioned in the text. The characters are highly stylized and difficult to read without context.

竊(竊)は古の我に非ざる由歎息東
之國は其は又古の我なる九能の事
之の事なるは、いかに自の事なるは
於時如我一社を傳ふるは法轉 版の
如は七代は其の事なるは其の事
其の事なるは其の事なるは其の事
其の事なるは其の事なるは其の事
其の事なるは其の事なるは其の事

其の事なるは其の事なるは其の事
其の事なるは其の事なるは其の事
其の事なるは其の事なるは其の事
其の事なるは其の事なるは其の事
其の事なるは其の事なるは其の事
其の事なるは其の事なるは其の事
其の事なるは其の事なるは其の事
其の事なるは其の事なるは其の事
其の事なるは其の事なるは其の事
其の事なるは其の事なるは其の事
其の事なるは其の事なるは其の事
其の事なるは其の事なるは其の事
其の事なるは其の事なるは其の事
其の事なるは其の事なるは其の事
其の事なるは其の事なるは其の事
其の事なるは其の事なるは其の事

多岐の地味に於ては其の
功利一河海に於て其の
書板も亦其の功利一河海に
其の功利一河海に於て其の

明治二十一年七月七日

内藤存守



明治二十一年七月十一日印刷
同 年七月十二日出版

定價金七拾錢

版權所有

東京府平民

著者
發行人

落合直澄



麴町區麴町三番丁二十八番地

東京府平民

發行所

吉川半七

東京府平民

東京府平民

印刷人

瀧澤 兼吉

東京四谷區麴町十三丁目十番地

